



長く広く愛され続けている 「クラシック音楽」の歴史

古代西洋音楽 ～500年頃

旧石器時代の音楽を起源とし、西洋音楽発祥の地とされるギリシャからローマへと続く古代西洋音楽は、クラシック音楽の基礎を形成していきました。



形として残る「西洋音楽のはじまり」

手拍子や足踏みといった音楽そのものの起源は、10万年以上前まで遡ると考えられています。世界で最初に生まれた楽器は打楽器だと言われていますが、史実として確認できる世界最古の楽器は、3万7000年前につくられた笛です。マンモスの牙やハゲワシの骨に複数の穴をあけたもので、ドイツの南部にある旧石器時代の洞窟遺跡で2008年に発見されました。メソポタミア文明や古代エジプト文明などの古代文明では、楽器や演奏者が描かれた粘土板や壁画などが数多く出土されています。

ギリシャ文明で目覚ましく発展した音楽

古代西洋音楽史のなかでも紀元前800年頃からのギリシャの音楽は、クラシック音楽の大元となるものだと考えられています。古代ギリシャには、音楽と詩と舞踊が一体となった「ムーシケー」という言葉があります。ギリシャ神話に登場するアポロンやオルフェウス、マルシヤスといった神々は、竖琴や笛、打楽器などさまざまな楽器を手にしています。古代ギリシャでは、音楽理論なども発達し、音楽は、冠婚葬祭や宗教的の祭事、演劇、叙事詩の朗唱などにも用いられました。スポーツの祭典「オリュンピア大祭（古代オリンピック）」とともに、音楽や詩、劇の祭典である「ピューティア大祭」も開催されていました。

キリスト教の音楽がクラシック音楽の原点

ギリシャが衰退してローマが地中海全域を支配するようになり、音楽もギリシャから引き継がれましたが、古代ローマの音楽としての目覚ましい進歩は見られませんでした。しかし、古代ローマの音楽は、ローマ帝国が長く迫害していたキリスト教の信仰を認めたことから、新たな方向へ向かいます。ローマの国教となったキリスト教は、やがてヨーロッパ全域に広がったことから、礼拝で歌われていた聖歌などもヨーロッパ中に広がり、クラシック音楽のルーツとなりました。

古代西洋音楽の楽器

リラ:ギリシャ神話に登場する太陽神「アポロン」は芸術・芸能の神でもあり、リラと呼ばれる竖琴の名手でした。リラは、小型のハープのような形状で、U字やV字型の板に張られた数本の弦を指で弾いて演奏しました。

ギリシャ神話には神が作った最初の楽器として出てくるので、欧米では楽器の象徴として軍楽隊の徽章(きしょう)になっていることも多いです。



古代西洋音楽の楽曲

トルコの都市近郊で発掘された、紀元前2世紀頃から紀元後1世紀頃のものとしてされる「セイキロスの墓碑銘」には、世界最古の楽曲が残っています。墓石に刻まれた歌詞の行間には古代ギリシアの音符による旋律の指示があり、古代ギリシアの詩人であるセイキロスがその妻にささげた楽曲とみられています。古代ギリシアにはこれより古いものも存在するようですが、短いながらも完全な形で残っているという意味で、最古の楽曲と言われています。



響き合う音の比率を発見したピタゴラス

古代ギリシアの数学者で、三平方の定理で知られるピタゴラスは、現代の音楽で使われているものの基本となる音程を定めた人でもあります。きれいに響き合う音と音は、単純な整数比であらわせることを発見し、それを体系的な音階に拡張することで、「ピタゴラス音律」を作りました。ピタゴラスが発見した、楽器の弦の長さが2:1、3:2、4:3の時に音が綺麗に響くというこの性質は、現在使われている音階にも当てはまります。紀元前約500年という時代の発見が、私たちが今耳にする音楽につながるということに、ロマンを感じます。